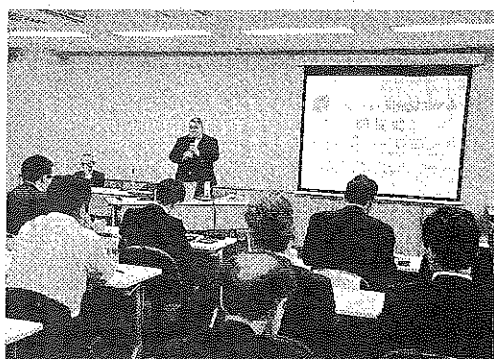


# アカデミックな技術者養成



地域建設企業と行政の建設総合技術力向上を目指した実践的な社会人教育と、地域や市民組織との連携・学習の場となる和合館工学舎の設立総会と開校式が21日、仙台市のフォレスト仙台で開かれた。

## 和合館工学舎が設立総会・開校式

〓写真。代表理事に小野組(新潟県胎内市)の小野貴史社長、学舎長には同社技術顧問の今西肇東北工業大名誉教授を選任した。技術交流と就職転職両支援センターやエンジニアリングマネジャー、テクニカルスペシャリスト養成事業などの2019年度事業計画決めた。

4月に開所した和合館工学舎は、本部の仙台のほか、札幌、新潟、東京、浜松、奈良、広島、島根にサテライトを備え、現場主義とテレワークを利用した働き方改革を目指した活動を展開。遠隔地対応可能な学習プログラムによる社会人技術者の教育、現場と直結したコンサルティング、エキスパートによる現場への直接指導などを展開する。

## 本部は仙台、7都市にサテライト

また、「ものづくりからことづくりの建設技術者」をテーマとした開校式では、小野代表理事が「アカデミックにより高いレベルの技術者教育と倫理観、社会教育がなければこれからの時代には対応できない」と、技術者教育への思いを語った。

大石久和全日本建設技術協会会長が「地方が救う日本の危機―人生100年時代―をインフラが創る」と題して特別講演したほか、「地域社会における建設技術者の役割とその教育」のテーマで石井敏東北工業大建築学科長、橋本正志日本技術士会東北本部参与、深松努仙台建設業協会会長らが意見を交わした。